

臨床研修カリキュラム

養成コース【リハビリテーション科】

全体目標：患者の診療において、傷病に伴う生活上の問題を視野に入れ適切に対応できる医師となるために、各科で治療を受けている患者の病態を考慮しながら生活機能の維持・向上を図るリハビリテーション医療の基本を習得する。

個別目標：

	1 カ月、1.5 カ月	2 ヶ月以上(再ローテーションを含む) 左記に加えて下記の事項ができる
1	機能障害を有する患者の医療面接、身体診察ができる	
2	適切な診療録の記載ができる	
3	全身状態を把握するための的確な情報を収集し、リハビリテーションを実施する際のリスク管理ができる	
4	患者の病態把握に必要な評価事項や検査を系統的に挙げることができる	
5	理学療法、作業療法、言語聴覚療法について適応の判断と基本的な処方ができる	
6	リハビリテーション治療の目標を設定し、実施に向けた計画立案し、患者や家族に対して説明できる	経時的な評価を行い、目標および計画の見直しができる
7	神経生理検査について適応の判断、手技の説明、結果の解釈ができる	
8	運動生理検査（運動負荷試験）について適応の判断、手技の説明、結果の解釈ができる	
9	呼吸機能検査について適応の判断、手技の説明、結果の解釈ができる	
10	嚥下障害について、スクリーニング評価の実施ができる	
11	嚥下内視鏡の適応の判断、結果の解釈ができる	上級医・指導医の指導のもとで、検査を実施することができる
12	嚥下造影検査の適応の判断、結果の解釈ができる	上級医・指導医の指導のもとで、検査を実施することができる
13	義肢装具の種類と適応を理解できる	
14	ボツリヌス療法について理解できる	

方略：

- ・患者を 1-2 人程度担当し、上級医・指導医の指導のもと主体的に診療する。
- ・週 1 回（金）、担当患者のプレゼンテーションを行い、指導医のフィードバックを受ける。
- ・指導医がセラピストとともに病棟ラウンドに参加し、担当患者について医師としてのコメントを述べる。

- ・担当患者について、セラピストによる各療法実施時の評価に参加する。
- ・生理検査および嚥下障害に関する検査時には、補助として参加し、上級医・指導医の指導のもと自身でも実施する。
- ・各診療グループ、病棟とのカンファランスに出席する。
- ・部内勉強会・抄読会での発表をローテーション中に最低1回担当する。
- ・院内外の勉強会や研修会・地方会には積極的に参加する。

評価：

- ・EPOCⅡによる評価を行う。
- ・ローテーション中に養成コース長による面接評価を行う。